

# 障害者へ理解、配慮を

## 17の企業・団体を

### あいサポート認定

県は、あいサポート運動を積極的に推進する県内17の企業・団体に認定証を交付した。同運動は障害者への理解を深め配慮を实践する取り組み。

認定証の授与式が県庁であり、村岡副知事が企業・団体の代表者に認定証を交付した。

認定企業・団体を代表し、マツダ防府工場の黒瀬智彦総務部長は「従業員やお客さんの中に障害のある方が多数おられる。あいサポ-

ーター研修を受け、まだまだやるべきことがたくさんあると気付いた。真摯にこの活動を推進していきたい」と述べた。

県障害者支援課によると、同運動は障害者差別の解消に向け、誰もが暮らしやすい社会づくりを推進するため2015年8月に始めた。認定証を受けたのは累計115の企業・団体で、従業員にあいサポート研修を開くなど運動に積極的に取り組んでいる。

# 障害者配慮の街づくり推進

## 東京パラへ 宇部など6自治体登録

政府は11日、2020年東京五輪・パラリンピックに向け、障害者に配慮した街づくりを推進する「共生社会ホストタウン」として、宇部市、青森県三

沢市や浜松市など6自治体を登録したと発表した。パラリンピック選手との交流

を控え、宿泊施設や運動施設のバリアフリー化に取り組む自治体を財政面や職員派遣で支援する狙いがある。

他に登録されたのは東京都世田谷区、兵庫県明石市、高松市。鈴木俊一五輪相が11日の関係省庁連絡会議で

報告した。鈴木氏は「各地で特色ある取り組みが展開できるよう支援したい」と述べた。今後も公募を続ける。

三沢市は、パラリンピックに出場するカナダの車いすラグビーチームの事前合宿地に内定しており、車いす対応の宿泊部屋やシャワールームなどを設置する。

浜松市は、長年交流を続けてきたフランスからパラリンピック選手約350人を受け入れる予定で、市内のホテルの改修などを後押しする。

明石市は韓国の車いす卓球チームとの交流を計画しており、駅周辺のバリアフリー化を推進。宇部市は、障害者の視点に立ったスポーツ施設を整備する。高松市は来年9月の日本パラ陸上競技選手権に台湾選手を招く計画だ。世田谷区も陸上競技場をバリアフリー化する。



あいサポート企業・団体の認定証を受ける事業所の代表者＝県庁